

10 月末の民間在庫 62 万ト、増 306 万ト

今後の大幅な需給緩和必至

生産量 10% 68 万ト増加

農水省はこのほど、10 月末における水稻うるち米の民間在庫を前年同月比で 62 万ト（25%）多い 306 万トと発表した。7 年産新米は 261 万トで、前年同月の 6 年産より 48 万ト（23%）多い。6 年産古米は 36 万トとなり、前年同月比で 13 万ト（57%）増えている。6 年産古米は前月比では 8 万ト（18%）減少し、古米がコンスタントに消化されている状況がうかがえる。未検査米は 9 万トあり、前年同月より 1 万ト（13%）多い（下表参照）。

出荷・販売段階別民間在庫量（万 t）

	6 年 10 月末	7 年 10 月末
出荷段階	187	226
対前年差	▲49	+39
販売段階	58	80
対前年差	+4	+23
合計	244	306
対前年差	▲45	+62

（注）①出荷段階は玄米仕入量 500t 以上の集荷業者など ②販売段階は玄米仕入量 4,000t 以上の卸など ③7 年 10 月末は、売り渡した備蓄米 4,000t も含む。

全農・道県出荷組合など出荷段階にある在庫は 226 万トとなり、前年より 39 万ト（21%）増加。このうち 7 年産は 208 万トで、前年より 36 万ト（36%）多い。6 年産古米は 16 万トで、前年よりも 4 万ト（33%）多い。未検査米の在庫は 2 万トで、前年よりも 1 万ト（33%）少ない。

一方、コメ卸など販売段階にある在庫は 80 万トとなり、前年同月より 23 万ト（38%）増加している。7 年産は前年を 12 万ト（29%）上回って 53 万トに増加。6 年産は 20 万トあり、前年より 9 万ト（82%）増えている。これには 6 年産備蓄米が 2000 ト含まれている。未検査米は、前年同月を 1 万ト（17%）上回る 7 万トがある。

今年 10 月末の民間在庫 306 万トンは前年同月より 62 万トン（25%）膨らんでいるが、最近では令和 4 年同月の 313 万トンに近い（7 万トン差）。4 年同月は、民間在庫が連続的に前年同月より減少し始めてから 2 カ月目に当たる。農水省が「見誤った」として自民党に謝罪した 4/5 年（4 年 7 月～5 年 6 月）需給見通しの 3 カ月目となる。

その後、民間在庫は 6 年 9 月（前年同月と増減なし）を除き、7 年 4 月まで 31 カ月にわたって前年同月比で減少する状況が続いた。

ようやく需給逼迫^{ひっばく}に気づいた農水省が 7 年 3 月に入札販売方式で政府備蓄米の放出を開始すると、民間在庫は同年 5 月から 10 月まで 6 カ月連続で増加することに。民間在庫のボリュームは、令和 4 年 10 月に近いものの、当時と状況は大きく異なる。

7 年産の予想収穫量が 746 万 8000 トンとなり、前年産より 67 万 6000 トン（10%）増加する予想となっている状況も合わせると、今後の大幅な需給緩和は必至。備蓄米の買い戻し・買い入れアナウンスがカギを握ってくることになる。